

憲法と映画(111)『長安のライチ』(中国)

<かな>

あなたは仕事で「無理難題」を押し付けられたことはありませんか。そんな時に断るといふ選択肢があるとすれば、まあ大方の人は丁寧にお断りするでしょう。でもNOの選択肢がなければ何としてでもやらざるを得ません。結果できなければサラリーマン人生が終わってしまうかもしれませんが。

そんな映画が、『長江のライチ』です。700年代半ばの唐の都・長安。下級官吏として地道に働く、数字に秀でた主人公・李善徳にある日、世界三大美女の一人・楊貴妃の誕生日を祝うため、遙か南方・嶺南の新鮮なライチを長安へ届けよ、との命令が上司から下ります。ライチはとても傷みやすく3日間で腐るといふ果物です。長安から嶺南までは数千キロ離れていて行くだけでもひと月はかかります。長安へ無傷で届けることはどう考えても不可能です。まあ体のいい首切りですね。成功すれば出世の道、しかし失敗すれば命の危険が待っています。上司の策略により、“ライチ使”に任命されてしまった李善徳は嶺南へと向かいます。

数字が得意な彼は、長安までの陸路や運河を使った移送ルートを考案して馬を走らせますがどのルートも途中で腐って失敗。それでもライチ農園の長の娘や計画に投資する商人、奴隷として虐げられていた青年をはじめ、思いも寄らぬ仲間たちと手を組むことに成功します。刻一刻と迫る納期、腐りやすい果実、そして宮廷に渦巻く官僚達の泥沼の権力闘争。数々の逆境のなか、歴史を揺るがす前代未聞の“ライチ運送計画”がスタートします。そしてついに届けることに成功しますが、数が足りないと言いがかりを付けられ命は助かったもののライチの産地嶺南に敢え無く左遷されてしまいます。

数字が得意な彼は、長安までの陸路や運河を使った移送ルートを考案して馬を走らせますがどのルートも途中で腐って失敗。それでもライチ農園の長の娘や計画に投資する商人、奴隷として虐げられていた青年をはじめ、思いも寄らぬ仲間たちと手を組むことに成功します。刻一刻と迫る納期、腐りやすい果実、そして宮廷に渦巻く官僚達の泥沼の権力闘争。数々の逆境のなか、歴史を揺るがす前代未聞の“ライチ運送計画”がスタートします。そしてついに届けることに成功しますが、数が足りないと言いがかりを付けられ命は助かったもののライチの産地嶺南に敢え無く左遷されてしまいます。

そのころ、長安では安禄山が、自らの地位を脅かされる危険を知って蜂起して陥落させ街中が火の海に。お陰で李善徳一家は命拾いします。中国でよくこんな映画が作れたと思うほど随所に権力批判がちりばめられていて、これが現代劇であれば中国政府は許可しなかつたらうと思った次第です。

